

**昭和音楽大学大学院音楽研究科の収容定員変更に係る
学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）**

目 次

(1) 収容定員を変更する組織の概要	2
①収容定員を変更する組織の概要 (名称, 入学定員(編入学定員), 収容定員, 所在地)	2
②収容定員を変更する組織の特色	2
(2) 人材需要の社会的な動向等	3
①収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的, 地域的, 社会的動向の分析	3
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的, 地域的動向の 分析	4
③収容定員を変更する組織の主な学生募集地域	6
④既設組織の定員充足の状況	6
(3) 学生確保の見通し	7
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	7
②競合校の状況分析	9
③人材需要に関するアンケート調査等	12
(4) 収容定員を変更する組織の定員設定の理由	13

【添付データ】(学生の確保の見通し等を記載した書類(資料)へ添付)

別紙1 収容定員を変更する組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙3 既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

(1) 収容定員を変更する組織の概要

①収容定員を変更する組織の概要

(名称, 入学定員 (編入学定員), 収容定員, 所在地)

収容定員を変更する組織の概要については、次のとおりである。

〔図表 1〕 収容定員を変更する組織の概要

収容定員を変更する組織	入学定員	収容定員	所在地
昭和音楽大学大学院 音楽研究科 音楽芸術表現専攻	65	130	神奈川県川崎市麻生区上麻生 1丁目11番地1
昭和音楽大学大学院 音楽研究科 音楽芸術運営専攻	15	30	神奈川県川崎市麻生区上麻生 1丁目11番地1

②収容定員を変更する組織の特色

学校法人東成学園は、音楽を中心とした幅広い領域に関する深い知識、技能を備えるとともに、社会に対する広い視野と高い識見を持った人材を育成し、文化の向上と社会の福祉に寄与することを目的として設立された。

その母体となっているのは、昭和 5 年、日本の音楽文化を担う優れた声楽家の育成を目的に、現在の東京都新宿区に創立した声楽研究所である。創立者、下八川圭祐は、藤原義江とともに藤原歌劇団の結成に参加し、日本におけるオペラの黎明期に第一線で活躍したオペラ歌手であった。同研究所は昭和 15 年に「東京声専音楽学校」となり、第二次世界大戦後の昭和 33 年、「学校法人東京声専音楽学校」として認可された。その後、昭和 44 年には、名称を学校法人東成学園に改めて認可を受けるとともに、新たに「昭和音楽短期大学」（後に昭和音楽大学短期大学部となる）を設置、さらに昭和 59 年には「昭和音楽大学」を設置した。

「昭和音楽大学」の建学の精神は「礼・節・技の人間教育」である。礼（礼儀）、節（節度）、技（技術・技能）を身につけ、高い品性とコミュニケーション能力をもった音楽家・音楽人を養成することとし、その具現化のため、「教育基本法及び学校教育法にしたがい、広く知識を授けるとともに、音楽を中心としたさまざまな領域に関する技能、理論及び応用を深く教授研究し、もって広い視野と高い識見を持つ人材育成を行い、文化の向上と社会の福祉に寄与することを目的とする」ことを昭和音楽大学学則第 1 条に定めている。そのため、社会のニーズに応える努力を重ね、音楽を中心とする幅広い領域の人材育成を総合的に

行うことを特色とする展開を重ねてきた。

平成 10 年に昭和音楽大学大学院音楽研究科修士課程（以下、本学修士課程という）を開設し、当初は「オペラ専攻」、「器楽専攻」、「音楽芸術運営専攻」の 3 専攻によって編成されていた。その後、平成 17 年の「大学院教育振興施策要綱」を受けて、社会と学生のニーズの変化に的確に対応し、より高度な音楽的・学術的素養を涵養する教育課程を構築するため、平成 23 年に大幅なカリキュラム改革を行い、教育課程を「音楽芸術表現専攻」と「音楽芸術運営専攻」の 2 専攻へと改組した。平成 26 年には昭和音楽大学大学院音楽研究科博士後期課程を開設し、現在に至っている。

本学修士課程は、広い視野に立って、精深な学識を授け、音楽専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養い、文化の進展に寄与することを目的として定めている（昭和音楽大学大学院規則第 2 条より）。本学の「礼節技の人間教育」の理念のもと、音楽と芸術文化における高度な知識と優れた技能をそなえ、専攻分野の実践的な研究を行う人材、または音楽芸術分野の専門的な職業に必要な能力を備えた人材の育成を目的とする。また、社会や文化に対する多角的な視野と高い識見をもって、専攻分野に貢献し、文化・社会に広く貢献し、発展に寄与する人材の育成を目的とするとともに、それらを可能とする学術研究を行うことを目的としている。修了生は、併設する博士後期課程への進学その他、国内外での演奏・作曲活動、舞台芸術の制作や音楽療法の現場等で活躍している。

尚、収容定員を変更する組織と近接する学問分野を持つ他の既設組織として、昭和音楽大学に芸術工学部（仮称・設置構想中）の開設を予定している。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

令和 5 年度学校基本調査（文部科学省）によると、大学院修士課程（芸術系）卒業生の博士後期課程や外国の学校への進学率は 13.9%であり、進学率が他の分野に比べて高い。また、自営業、有期・無期雇用での就業は 52.2%であり、そのうち最も多いのは美術家、写真家、デザイナー、音楽家、舞台芸術家等の専門的・技術的職業従事者の 49.4%、次いで教員が 7.8%となっている。その他 42.8%は様々な産業分野の民間企業等へ就業しており、卒業後の就業先は音楽系の専門職にとどまらず多様である。従って、人材需要の動向は、博士後期課程等への進学需要の動向及び一般的な有効求人倍率を確認することが有用である。

博士後期課程（音楽）の志願者、入学者の状況を確認すると、志願者は過去 5 年で微増傾向にある（図表 2）。

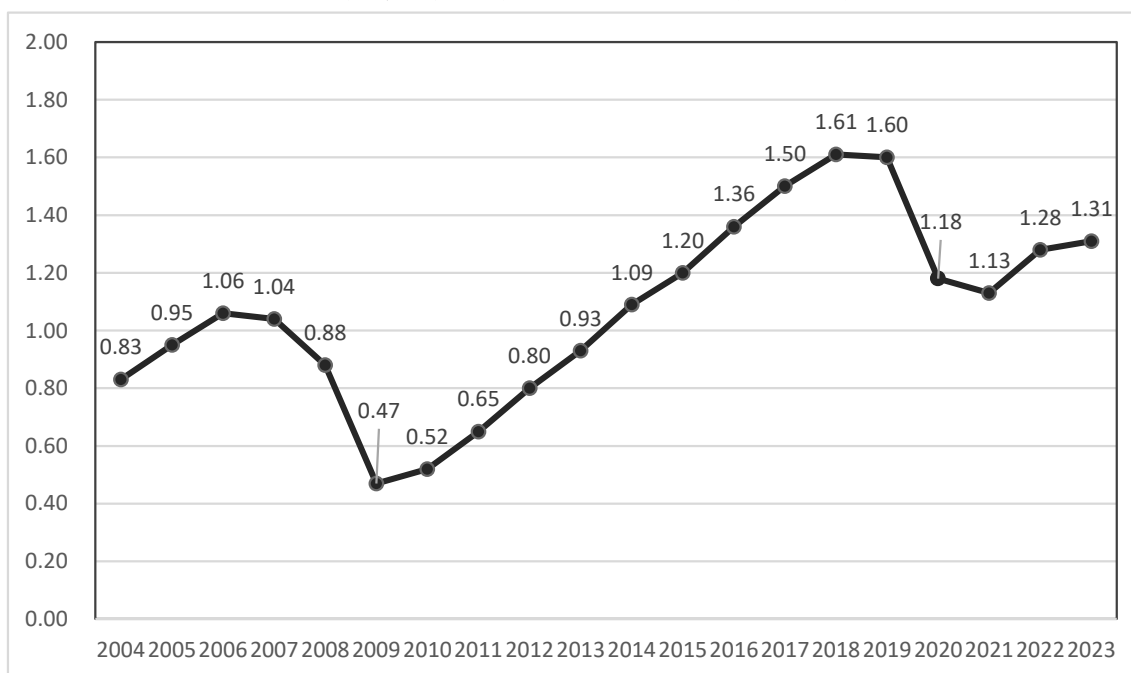
〔図表 2〕 大学院博士後期課程（音楽）入学者数 （単位：名）

	入学志願者数	入学者数
平成 31 年度	92	46
令和 2 年度	102	43
令和 3 年度	70	30
令和 4 年度	107	38
令和 5 年度	101	42

※学校基本調査（文部科学省）

また、有効求人倍率は、過去 20 年で概ね上昇傾向にあり、過去 10 年において 1.00 倍を下回ることなく推移している(図表 3)。

〔図表 3〕 有効求人倍率 （単位：倍）



※ 総務省統計局「労働力調査」・厚生労働省「職業安定業務統計」

<https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/timeseries/html/g0301.html>

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

大学学部卒業者のうち、令和 5 年度卒業者の大学院等への進学者は 73,649 名（12.5%）であり、平成 31 年 3 月卒業者 65,355 名（11.4%）と比較すると、この 5 年で人数、割合ともに微増傾向にある(図表 4)。18 歳人口は微減傾向であるが、大学進学率は増加傾向であるため、当面 18 歳人口の減少傾向による大学院進学者数への影響は少ないものとする。

〔図表 4〕 大学(学部)卒業後の状況 (単位:名、%)

学部卒業年	進学者数	学部卒業生数に占める割合
平成 31 年 3 月	65,355	11.4
令和 2 年 3 月	64,627	11.3
令和 3 年 3 月	68,776	11.8
令和 4 年 3 月	73,106	12.4
令和 5 年 3 月	73,649	12.5

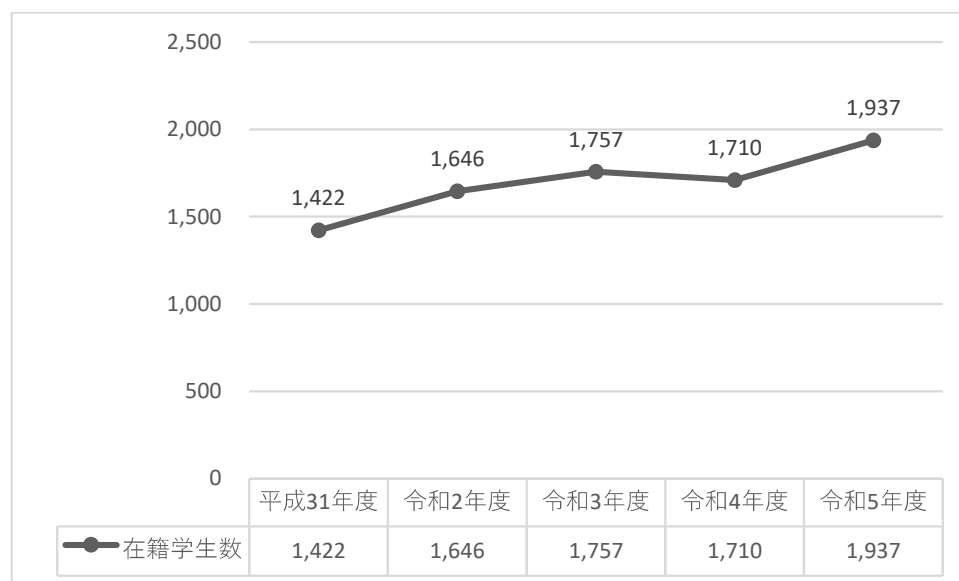
※1 「進学者」には、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科・別科、専修学校、外国の学校へ入学した者を含む。

※2 文部科学省 令和 5 年報道発表「令和 5 年度学校基本調査結果のポイント」

https://www.mext.go.jp/content/20230823-mxt_chousa01-000031377_001.pdf#page%EF%BC%9D7

また、令和 5 年度学校基本調査（文部科学省）によると、大学院修士課程に在籍する学生のうち、芸術分野に在籍する学生は 3.0%であるが、大学院修士課程に在籍する外国人留学生はその 6.5%が芸術分野に在籍しており、芸術分野は比較的外国人学生が多い分野である。とりわけ、大学院修士課程（芸術分野）に在籍する外国人学生は、過去 5 年の推移を確認すると、増加傾向であることが確認できる(図表 5)。

〔図表 5〕 大学院修士課程 芸術分野 在籍外国人留学生数 (単位:名)



※学校基本調査（文部科学省）では外国人学生数と表記

③収容定員を変更する組織の主な学生募集地域

本学修士課程各専攻における令和6年度入学生の状況は次のとおりである(図表6、7)。これらのデータから、関東を主な学生募集地域として設定し、且つ外国人留学生についても募集において注力する入学者として想定する。外国人留学生については、特定の国に絞った募集ではなく日本語学校等を対象に音楽分野に関心を持つ外国人学生全般に広く募集活動を展開する。

〔図表6〕入学生のうち出身地域の割合 (単位:名)

修士課程	入学者数	神奈川県 東京都	その他の 関東	その他 の道府県	外国
音楽芸術表現専攻	68	85.3%	4.4%	7.4%	2.9%
音楽芸術運営専攻	19	94.7%	5.3%	0%	0%

〔図表7〕入学生のうち社会人及び外国人留学生の割合 (単位:名)

修士課程	入学者数	うち社会人 の割合※1	うち外国人留学生 の割合
音楽芸術表現専攻	68	13.2%	47.1%
音楽芸術運営専攻	19	5.3%	73.7%

※1: 学校基本調査の社会人定義「職に就いている者(給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者)の数。ただし、企業等を退職した者、及び主婦なども含む。」に準じて算出。

また、芸術系の修士課程における定員充足状況は過去3年いずれも100.00%を超えており【資料1】、さらに音楽研究科に絞った場合でも、日本私立学校振興・共済事業団「令和5(2023)年度私立大学・短期大学等入学志願動向」によると令和5年度は122.82%となっている。

・参照:【資料1】別紙1 収容定員を変更する組織が置かれる都道府県への入学状況

④既設組織の定員充足の状況

本研究科の基礎となる昭和音楽大学音楽学部の定員充足状況は次の通りである。収容定員の充足状況率は、過去5年間の平均で1.07と安定して推移している(図表8)。

〔図表 8〕 昭和音楽大学音楽学部 定員充足状況 (単位:名、倍)

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均
音楽芸術 表現学科	収容定員	760	750	760	770	785	765
	在学生数	773	833	864	854	842	833
	収容定員充足率	1.02	1.11	1.14	1.11	1.07	1.09
音楽芸術 運営学科	収容定員	410	410	410	410	410	410
	在学生数	477	466	449	411	336	428
	収容定員充足率	1.16	1.14	1.10	1.00	0.82	1.04

また、志願倍率についても 1.5 倍以上にて推移しており、一定の選抜機能も確保できている(図表 9)。今後も同様の状況が継続できるものと見込んでいる。

〔図表 9〕 昭和音楽大学音楽学部 志願状況 (単位:名、倍)

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均
音楽芸術 表現学科	入学定員	185	185	185	185	200	188
	志願者数	332	322	321	306	294	315
	志願倍率	1.79	1.74	1.74	1.65	1.47	1.68
音楽芸術 運営学科	入学定員	100	100	100	100	100	100
	志願者数	200	149	131	102	100	136
	志願倍率	2.00	1.49	1.31	1.02	1.00	1.36

(3) 学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

(イ 収容定員を変更する組織における取組とその目標を含む)

本研究科における学生確保の取り組みと目標は、基本的にこれまでの募集活動を踏襲する。また、募集広報活動は 2 つの専攻を分けずに音楽研究科として統一して実施する。

(A) 昭和音楽大学音楽学部の学生を対象とした説明会

本研究科の基礎となる昭和音楽大学音楽学部の学生を対象とした説明会を実施する。過去の参加実績は次の通りであり、過去3年の平均は27名である(図表10)。

〔図表10〕 昭和音楽大学音楽学部の学生を対象とした説明会参加者数 (単位:名)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
参加者数	32	25	23

(B) 昭和音楽大学大学院入試説明会

大学院への入学を希望する者を対象に、入試説明会を8月と12月に実施する。過去の参加者数は次の通りである(図表11)。本年度は7月時点で既に16名もの参加申込者があり、例年よりも多い参加者数が見込まれている。説明会チラシの作成(同時期の説明会・講習会情報を含む)とチラシの一斉発送、大学ウェブサイトでの説明会の案内(申込フォームも設定)等、学生確保に効果的な情報発信を行う予定である。

〔図表11〕 大学院入試説明会参加者数 (単位:名)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度 ※1
参加者数	30	37	16

※1 令和6年度は令和6年7月時点での参加申し込み者数

(C) 昭和音楽大学大学院の資料請求

大学院の資料や過去問題の資料請求数は、令和4年度が97件、令和5年度が170件、令和6年度が45件(7月末現在)である。令和5年4月に本学ウェブサイトを更新したことによる効果もあるが、資料請求数は順調に増えている。令和6年度は、令和5年度の7月末時点の48件よりもやや少ない状況であるが、令和6年度の資料請求数は最終的に令和5年度とほぼ同数になると見込んでいる(図表12)。

〔図表12〕 大学院資料請求数 (単位:名)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度 (7月末時点)
資料請求者数	97	170	45

(A) から (C) の取り組みに対する受験率や入学率については【資料2】に記載のとおりである。

・参照:【資料2】別紙3 既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく収容定員を変更する組織での入学者見込み数

【音楽芸術表現専攻】

前述の学生確保に関する取り組み状況及び過去 3 年間の志願者及び入学者実績から、音楽芸術表現専攻は令和 7 年度において 65 名以上の入学者を見込んでいる(図表 13)。

〔図表 13〕 音楽芸術表現専攻の入学者数等の推移 (単位:名、倍)

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	平均
入学定員	35	35	35	35
入学者数	40	56	68	55
入学定員充足率	1.14	1.60	1.94	1.57

【音楽芸術運営専攻】

前述の学生確保に関する取り組み状況及び過去 3 年間の志願者及び入学者実績から、音楽芸術運営専攻は、令和 7 年度において 15 名以上の入学者を見込んでいる(図表 14)。

〔図表 14〕 音楽芸術運営専攻の入学者数等の推移 (単位:名、倍)

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	平均
入学定員	6	6	6	6
入学者数	8	19	19	15
入学定員充足率	1.33	3.16	3.16	2.50

②競合校の状況分析

(立地条件, 養成人材, 教育内容と方法の類似性と定員充足状況)

ア 競合校の選定理由と収容定員を変更する組織との比較分析, 優位性

○競合校の選定理由

学校種、定員規模、学問分野、所在地、その他課程の 5 つの観点において、次の表のとおり本研究科の 2 専攻と類似性が確認できるため、洗足学園音楽大学大学院を競合として選定した(図表 15)。

〔図表 15〕 競合校との比較表

	昭和音楽大学大学院 音楽研究科	洗足学園音楽大学大学院 音楽研究科
学校種	私立 大学院 修士課程	私立 大学院 修士課程
定員規模	収容定員 160 名	収容定員 128 名
学問分野（専攻）	音楽研究科 ■音楽芸術表現専攻 （作曲、指揮、声楽研究、オペラ、ピアノ、電子オルガン、弦・管・打楽器、ジャズ&コンテンポラリーミュージック） ■音楽芸術運営専攻 （アートマネジメント、音楽療法、音楽と文化）	音楽研究科 ■器楽専攻 ■声楽専攻 ■音楽教育学専攻 ■作曲専攻
所在地	神奈川県川崎市	神奈川県川崎市
その他課程	博士後期課程あり	博士後期課程なし

○競合校との比較分析

・教育内容と方法

洗足学園音楽大学は 4 専攻、本研究科は 2 専攻を設置しているが、本研究科は音楽芸術表現専攻に 8 コース、音楽芸術運営専攻に 3 コースを開設しており、現代社会や音楽界のニーズ、学生の多様なキャリアの可能性に応えるカリキュラムとなっている点において優位性がある。また、本研究科は博士後期課程を有しているが、修士課程の後に進学ができる点において優位性がある。

・入試（競合校の受験時期，入学手続時期との関係）

受験時期については、両大学院とも 2 回実施予定となっている。但し、2 回目の実施時期については、洗足学園音楽大学大学院が 3 月であるのに対して、本研究科は 2 月の予定となっている。より早期に受験日を設け、早期に進路を決定したい受験生のニーズに応えている。

・学生納付金、取得できる資格等

取得できる資格については、両大学院ともに、すでに教員免許状一種免許状（音楽）を持ち、大学院において所定の単位を修得した場合において高等学校教諭専修免許状（音楽）・中学校教諭専修免許状（音楽）が取得できる点において類似してい

る。しかしながら、標準修業期間（2年間）での学生納付金は、昭和音楽大学大学院が640,000円低くなっている（図表16）。

〔図表16〕 学生納付金の比較 （単位：円）

大学名	昭和音楽大学大学院 修士課程	洗足学園音楽大学大学院 修士課程
(a) 入学金	100,000（本学出身者不要）	不要
(b) 授業料	1,200,000	1,490,000
(c) その他	420,000	500,000
(a) + (b) + (c) 1年次合計	1,720,000	1,990,000
2年次年額合計	1,620,000	1,990,000
修業期間合計	3,340,000	3,980,000
備考	※同侪会費（入学時のみ、本学出身者不要）28,000円 ※特待生制度あり	※学生教育研究災害傷害保険料1,400円

イ 競合校の入学志願者の動向等

洗足学園音楽大学大学院における入学志願者の動向については、過去3年で志願者増の傾向にある（図表17）。本研究科も安定した志願者数を得ていることから、音楽分野の修士課程において十分な需要が存在するものと思われる。尚、次の表において、受験者数は公式ホームページにて公表されていないため割愛している。

〔図表17〕 洗足学園音楽大学大学院音楽研究科 入学志願者数等 （単位：名、倍）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入学定員	64	64	64
志願者数	177	225	239
合格者数	101	102	109
入学者数	89	94	96
入学定員充足率	1.39	1.47	1.50

※洗足学園音楽大学公式ホームページ参照

<https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2023/nyugakusha.pdf>

<https://www.senzoku.ac.jp/music/about/pdf/data/2024/nyugakusha.pdf>

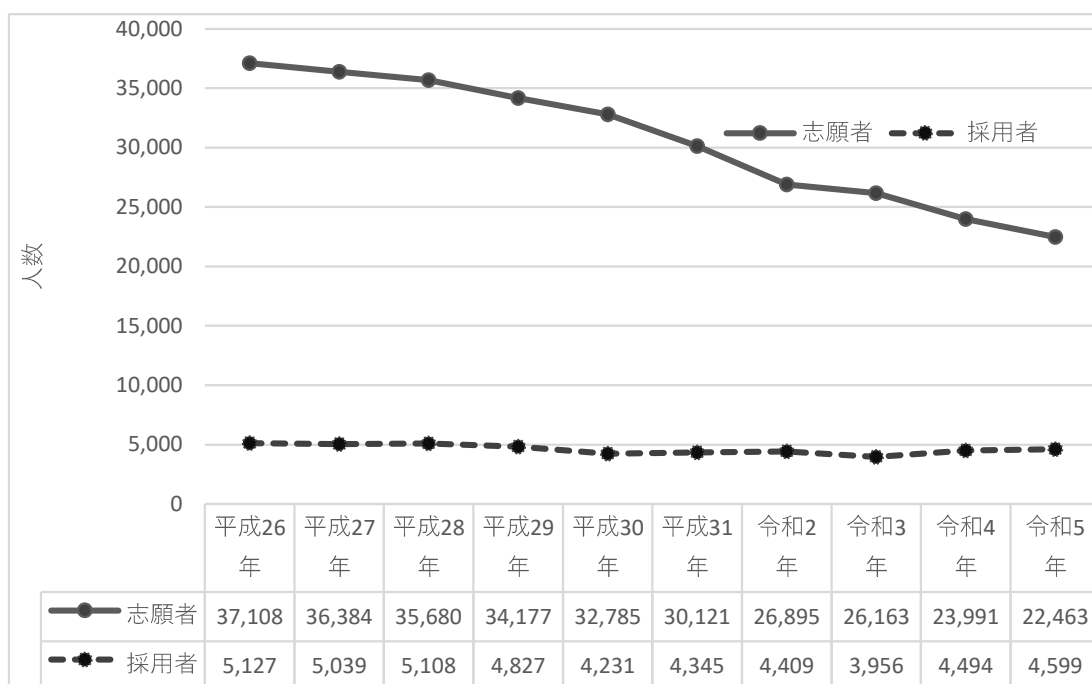
ウ 学生納付金等の金額設定の理由

学生納付金は、今回の定員変更と同じ令和7年度に改定を予定している。本学音楽学部等からの進学者（以下、学内進学者）が令和4年度は23名、令和5年度は24名と、入学者全体の約4割を占めている状況が続いていることから、学内進学者の入学金を不要とし、競合校等への流出を防ぐ対策を行う。また、学外からの入学者についても、200,000円から100,000円と半額にすることで、初年度の学生納付金を下げる。人件費や物価の高騰により、授業料、施設費は値上げを行うが、競合校等を比較検討し、学生納付金は低く設定する。

③ 人材需要に関するアンケート調査等

一般企業等の有効求人倍率の向上については、前述（2）人材需要の社会的な動向等①収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析）の通りであるが、それらに加えて、就業を望む本研究科の修了生において、教員も主に想定される進路の一つである。公立学校教員採用試験（高等学校）の志願者数は減少傾向であるが、採用人数は過去10年においてほぼ横這いであり、志願者数に関係なく安定した数の募集と採用が将来的にも見込まれ、社会的な人材需要は十分にあることが確認できる（図表18）。

〔図表18〕 公立学校教員採用試験（高等学校） 志願者数等 （単位：名）



※養護教諭・栄養教諭・特別支援学校は除く

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/senkou/1416039_00006.html

(4) 収容定員を変更する組織の定員設定の理由

過去3年間の入学者数において、2専攻とも、既存の定員を上回る入学者数を継続的に得ている。そのため、本申請の定員は、過去3年間の入学者数を踏まえ、定員数を現状の需要に合わせて適正化することに主眼をおいて検討を行い、妥当な定員数を設定した。従って、これまでと同様の募集広報活動によって、直近と同程度の志願者数を得ることにより、十分な入学者を確保できるものと見込んでいる。

以 上